

資料編 舞鶴市図書館基本計画審議会の参考資料

＜ 図書館基本計画審議会答申から抜粋 ＞

第1章 参考資料 舞鶴市の図書館のいま

- 1-1 舞鶴市の環境、暮らし、まちづくりと図書館
 - ① 舞鶴市立図書館の成り立ち 資料-1
 - ② 地域や町別に見た図書館の利用傾向 資料-2
- 1-2 舞鶴市の図書館サービスのいま
 - ① 東・西図書館と中・南・加佐分館を知る 資料-3
 - ② 図書館と類縁施設を知る 資料-8
 - ③ 舞鶴市の小・中学校と学校図書館を知る 資料-14
 - ④ 「必要課題」と「要求課題」を考える 資料-23
 - ⑤ 舞鶴市の地域拠点と支援施策を知る 資料-24
 - ⑥ 市民グループから活動と意見を聴く 資料-26
 - ⑦ 図書館協議会による利用分析と改善提言
 - ◆「令和2年意見書」と「令和3年研究案」 資料-29
 - ⑧ アンケート調査から市民の声を聴く
 - ◆「1,322人市民の回答」 資料-32
 - ◆「386の自由記述意見」 資料-33
- 1-3 これまでの図書館サービスとその課題
 - ① 年間50万冊貸出し44都市の図書館政策を比較する 資料-39

第2章 参考資料 舞鶴市の図書館のめざすもの

- 2-2 舞鶴市の図書館サービスの再編と成長をめざして
＜図書館サービスの6つの施策アイデア＞
 - ① 広域な舞鶴市域に中央図書館と5分館・
地域奉仕拠点を再配置する 資料-41
 - ② 全市域へのサービスを束ねる中央図書館
 - ◆「地域情報ハブとしての図書館」という視点 資料-42
 - ◆「中央図書館へのアクセス」を整える 資料-44
 - ③ 小・中学校図書館の充実方策と公共図書館連携支援 資料-45
 - ④ 京都府北部地域の広域図書館連携を推進する 資料-51
- 2-3 図書館の設置と運営について3つの基本方針
 - ① 「教育基本法」「図書館法」と図書館の社会的使命 資料-54
 - ② 文部科学省告示
「図書館の設置及び運営上の望ましい基準」 資料-55
 - ③ 日本図書館協会「公立図書館の任務と目標」 資料-56
- 2-4 舞鶴市図書館はどのようなレベルの
図書館サービスをめざすか
 - ① 図書館サービスの到達指標を想定する 資料-58

第3章 参考資料 舞鶴市の中央図書館を想像する

- 3-1 中央図書館の施設計画を想定する
 - ① 中央図書館の規模面積を試算する基礎的資料 資料-59
 - ② 中央図書館の部門別の諸機能と規模 資料-60
 - ③ 諸機能と各部門の配置概念図／相関図 資料-66
 - ④ 類似規模自治体中央図書館の施設規模比較 資料-67
 - ⑤ 中央図書館施設の計画でめざすもの 資料-68
- 3-2 中央図書館の敷地計画を想定する
 - ① 西舞鶴駅前候補地の配置イメージ適正検討 資料-69
 - ② 候補地と図書館施設の同スケール比較 資料-70
- 3-3 中央図書館の運営と管理を想定する
 - ① 運営と管理計画の視点と基本方針 資料-75
 - ② 中央図書館の資料収集と組織化(構造化) 資料-76
 - ③ 中央図書館の運営組織と職員構成 資料-77
- 3-5 中央図書館整備を進めるために
 - ① 整備担当チームの役割 資料-79
 - ② 図書館運営上のいくつかの課題 資料-80
 - ③ 市民とともに進める図書館サービス 資料-81

1-1-① 舞鶴市立図書館の成り立ち

□舞鶴市立図書館の成り立ち

舞鶴の図書館は、明治45年、明倫尋常高等小学校に校長や教員が図書を集積整理し、舞鶴町民の利用に供したことから始まりました。昭和2年に、図書館は元舞鶴税務署であった建物に移転しますが、土地建物の払い下げにあたり、舞鶴出身の篤志家である有本國蔵氏が舞鶴町に多額の寄付をされています。

舞鶴町長・市長を歴任した水島彦一郎氏の著書『有本國蔵翁』に、図書館の移転前後のことが記載されています。

『舞鶴図書館の寄付
敷地建物諸設備まで 地方にめずらしい立派な図書館
として文部省より選奨される。』 昭和6年



旧舞鶴市立西図書館。
図書館移転後は舞鶴商工会館として使用された。

**舞鶴図書館の寄付
敷地建物諸設備まで
地方にめずらしい立派な図書館として
文部省より選奨される。**

爾来、舞鶴町立図書館は、明倫高等尋常小学校南舎の二室を使用したもので、先校長亀井新太郎氏が、村山訓導やその他の教員諸氏と共に熱心に図書の収集整理を行われたけれども、何分にも室内が狭隘（狭く）で設備が不十分であり、且つ学校の構内にある為に関覧者が多く寄りつかぬ恨みがあった。

しかし有本翁に対する税務署跡の土地建物買収寄付の要請については積善社への出資早々であるから、我々も其の依頼を躊躇しておつたが、幸い親戚の舞鶴の近藤久兵衛・先代児玉亀三郎・故伏木堅蔵の三氏及び、京都有本本店の近藤保之亮氏等が、私の希望を入れて多に斡旋する処となり、遂に京阪の両有本氏の快諾を得て寄付を受けることになったのである。

即ち、有本翁はその為に舞鶴に出張して、实地調査をされたが、その建物は前に新築して僅か二年の後、若槻内閣の時、某の理不尽たる両丹税務署整理の美名による悪策の犠牲となつて、廃止させられた舞鶴税務署の跡であつて極めて新しい洋館二階建ての恰好のもので、鉄筋コンクリートの帳簿庫さえ付属しており、敷地と共に数万円（当時）の原価はするであらう。

翁はこれを見て大いに気に入り、これはかねての自分の希望に合致するものであるから、自分も喜んでお申し込みに応じるだけでなく、京都の嘉兵衛にも私から話して無論承知させる、とて大いに乗り気になり、この上は大阪の税務監督局で廉価払い下げを受けてくれとの事であるから、

我々も大いに喜んで同局へ行きいろいろ陳情の結果、使用目的を斟酌して充分廉価にされ、遂に二万三千六百五十銭で払い下げられたのである。

その時、同局においていろいろ懇切に取り扱された。

図書館の敷地と建物はこれ出来上つたがその内部の設備品は一つも無い。久しく伽藍堂であつた。これにも相当の金があるので町費は多端でなかなか出来そうにもない。『有本積善社』が設立を申請してから一年近くにもなるのに、何とかと難しいことを云つて認可してれない。

しかし、両有本氏の寄付金十萬円の公費は、半年前に私と田中覚蔵氏と二人で貰ひに行つて、宙に浮いている。未だ財団法人が出来ていないから、その利子は両有本家のものであるが、一つこれをも無心ついでに貰つて、その半分の利子二千五百円で、半分は明倫小、吉原小両校と図書館のストープを買い、半分は図書館のテーブル、椅子、書棚や書庫内の書架を整え、おまけに図書館楼上を小会議室にするため、そのテーブル、椅子を購入したい、と考へて早速に有本翁に相談に行くと、翁は『京都の嘉兵衛にも相談しておいてください』と云われた。

そこで、私は、『両校のストープは多年の問題であるが、何分町費多端のため、話が成り立たず今日になつてゐる。しかも雪国の寒い冬をストープなしで、一教室一個の火鉢だけで、可愛い二千人の児童が辛抱しているのです』と云うと、翁は俄に顔を曇らせて

「可愛そうに、そうですね。それは是非買つてやつてください。」と

自分の幼少時十一歳で番致舎の丁稚となり、水汲み漬け物切りに手足のあかぎれを切らした当時を思い出したとて、即座に快諾された。

それを見て私はしみじみ翁の純情に感激した次第です。 ※

即ち、この様にして設立された現在の図書館であつて、一切の設備が整つたのを以て、明倫校内の町立図書館をここへ移し、有本文庫二冊も作り、有本翁よりは図書三百三十六冊の寄贈があり、その他京都府や文部省及び個人・本屋等より、それぞれ図書の寄贈を受けるまでに認められるに至り、殊に昭和二年（一九二七）夏には内務大臣鈴木喜三郎氏が、舞鶴港修築計画の下検分のため来鶴されたとき、本図書館を見て、いたく推奨をされ、これを中、中央政府に報告されたが、その四年後の紀元節には、文部省より逐年成績見るべきものありと、金五十円を交付して選奨され、全国的にその存在を認められるに至つたのである。

現在図書館の蔵書は、七千五百六十六冊で、昭和十一年の閲覧者は、一万四千九百九十六人の多数により創立後三年の昭和五年の閲覧者数四千六百二人と比較すると、正に三倍半に及ぶ趨勢で、如何にこの事業が地方多年の要望に適合しているか、と知ることができる。しかもこれはひとり舞鶴町だけの為ではないから、今では加佐郡内は素より何鹿と謝その他の諸地方から、篤学の青年が次第に来るようになってゐる。

而して本館の開館当時より、司書として多年尽瘁した島田孝次氏が物故し、今では今井孝造氏が司書として、綿密にして親切なる図書の整理・貸出にあたり、今や地方の社会教育機関としてかくこの出来ないものになつてゐる。けだし学資無くて勉強する青年男女に、寄与しようとする両有本氏の希望は、このようにして年々報いられ、次第に大きな光を放つて行くのである。

※私はしみじみ・・・「私」とは当時町長であつた水島氏。

出典：『有本國蔵翁』水島彦一郎 著 昭和12年発行 平成15年複製出版

1-1-② 地域や町別に見た図書館の利用傾向

□ 2.1の町・地域ごとの「図書館登録率」と「ひとり年間貸出冊数」

舞鶴市には、東西2極の中心市街地に対応して東西図書館が同等にサービスを展開しているものの、図書館に近く比較的利用の高い7町地域でも、市民一人年間貸出冊数は全国

東・西図書館					
地域	地域人口 (人)	貸出冊数 (冊)	人口一人 当たりの 貸出冊数 (冊)	登録者数 (人)	登録率 (%)
東大浦	753	1,169	1.55	164	22%
西大浦	1,120	3,005	2.68	286	26%
朝来	2,667	9,219	3.46	1,009	38%
志楽	5,299	19,419	3.66	2,751	52%
与保呂	2,723	7,569	2.78	789	29%
倉梯	13,692	38,558	2.82	4,303	31%
祖母谷	4,042	19,126	4.73	1,793	44%
新舞鶴	8,617	25,669	2.98	3,048	35%
中舞鶴	7,427	16,543	2.23	2,190	29%
旧舞鶴	8,091	20,858	2.58	3,240	40%
余内	7,642	24,006	3.14	2,866	38%
四所	2,434	5,855	2.41	780	32%
高野	2,851	10,611	3.72	1,129	40%
中筋	8,754	47,628	5.44	3,293	38%
池内	1,389	3,730	2.69	401	29%
岡田上	612	665	1.09	85	14%
岡田中	524	531	1.01	108	21%
岡田下	767	777	1.01	139	18%
八雲	1,082	1,248	1.15	257	24%
神崎	471	324	0.69	91	19%
市内計	80,957	256,510	3.17	28,722	35%
市外計		1,324		385	
合計		257,834		29,107	

平均値を超えない状況が左表で読み取れます。このサービス実績の経年的な停滞の原因を明らかにして、改善の方向性を計画することから考え始めます。現代の図書館サービスの3原則のひとつである「全域への奉仕」が十分に届いているか、ここで読み解きます。

- 中心地東西2館への全市域からの来やすさ対策は、不十分か？ それは、郊外部の町の登録率の低さに示されています。図書館配置、公共交通体系との不調和、駐車場台数の不足、など課題を補完する対応が不十分です。
- 全市分館や東西2館の市民的魅力度、誘客力は成長しているか？ それは全市民貸出密度、館に近い町でも全国平均以下、に示されます。施設環境、資料の量と新鮮さ、サービスの専門性信頼度など課題への対応が求められます。
- 中心地東西2館からのアトリサービスは体系化しているか？ 特定の学校やリクエスト対応だけでなく、利用率や貸出密度が低い町々につながりサービスを届ける仕組みが体系化されているかが統計値の経年成長に現れます。

利用統計の町々別への掘下げは、舞鶴市の図書館のいまと施策の課題を、如実に浮かび上がらせています。

出典) 舞鶴市立図書館年報
(令和2年度)
及び
図書館作成研究資料

※ 4館別の利用登録 (令和2年度)

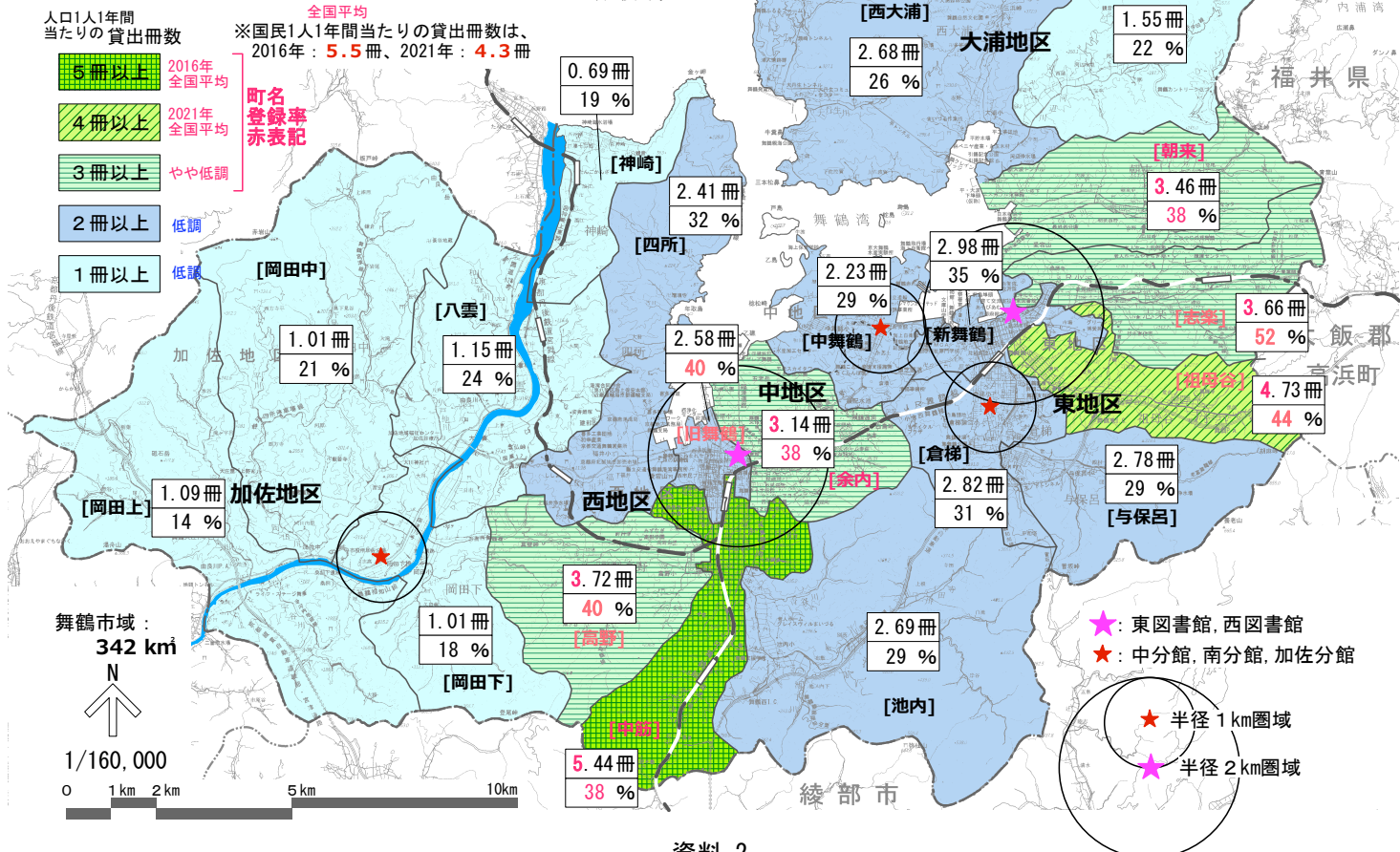
	登録者数	比率
東図書館 西図書館	29,107人	75.7%
中分館	6,785人	17.7%
南分館	2,473人	6.4%
加佐分館	79人	0.2%
合計	38,444人	100%

- ・ 3分館は蔵書管理/登録/貸出/各館相互貸借返却の連携/なし。
- ・ 3分館の蔵書構成や貸出冊数についての統計をとっていない。分館貸出は統計に反映されない。
- ・ 3分館はかつての公民館図書室的運営であり、分館名称を持つ。

※ 居住地区別の図書館利用

冊	: 1人/年間貸出冊数 (貸出密度と呼ばれます)
%	: 図書館登録率

若狭湾



1-2-① 東・西図書館と中・南・加佐分館を知る

◆ 舞鶴市立東図書館 訪問ヒアリング記録

日時：令和3年10月22日(木)午後2：40～

場所：舞鶴市立東図書館

出席：舞鶴市立東図書館：館長、主任（両名とも司書）
市民文化環境部文化スポーツ室図書館課：課長
コンサルタント：

○施設概要

- ・建設：1989年、延床面積：1,014㎡、構造：RC一部S造平屋建
- ・BDS盗難防止ゲート/システムなし

○資料概要（令和2年度）詳細は図書館年報令和2年度に詳しい。

- ・蔵書：12.4万冊（開架8.7万冊、閉架3.7万冊、双方満杯状態）
磁気テープやICチップの装備を図書にしていない。
- ・蔵書の内訳：一般図書9.0万冊、児童書3.4万冊
（東西図書館それぞれの分類別蔵書構成の割合は左下表に転載）
- ・雑誌127タイトル、新聞16紙、視聴覚資料1099点

○利用状況（令和2年度）*感染症拡大のため1ヶ月の休館あり

- ・個人貸出冊数：12.4万冊、貸出者数：6,061人
- ・団体貸出冊数：1.3万冊、のべ利用団体数：446
- ・全市登録率35%、市民1人年間貸出冊数3.17冊、
全市ネットワーク展開が弱く、登録や貸出数の成長が足踏み状態。

○施設状況<建築的課題>

- ・雨水漏水の修繕をたびたび行っている。（屋上か高窓廻りか）
- ・トイレは和便のみ、改修が必要。（給排水管設備も心配）
- ・空調機の効きが悪い（旧型ファン機器を修繕して使っている）
- ・空調機の老朽化（故障すると交換部品が無い）
- ・書架間通路幅など新パリアフリー法規格にあっていない（w1.2m）
- ・西と南の日差しが入る構造でブラインド調光や遮熱断熱に課題

○施設状況<図書館機能的課題>

- ・開架、閉架ともに満杯の状況。（現施設収容力自体が小さい）
30万冊開架への成長不可、書庫積層化で集密型導入できず、
- ・対面朗読室が2室あるが、利用無く、資料倉庫化している。
- ・開架書架は高書架だが6段で7段化できない寸法構造。
- ・カーペットコーナー/共用お話し室は、防音性能や集中性には不十分。
- ・読書テラスがあるが、防犯監視や管理区画に対応できていない。
- ・新聞現物保存方法と収納架の対応が、過渡的なままで不十分。
- ・書庫上層への図書搬出入昇降が人力で重労働。

東図書館の蔵書構成

	一般書	児童書
0総記	1,454	227
1哲学・宗教	1,991	120
2歴史・地理	6,018	1,183
3社会科学	9,173	1,037
4自然科学	4,811	2,473
5技術・工学	5,174	736
6産業	2,136	504
7芸術	5,577	1,276
8語学	1,096	245
9文学	22,185	9,008
絵本	70	7,261
紙芝居	0	551
参考資料	1,433	206
郷土資料	768	6
開架計	61,886	24,833
閉架	28,588	8,715
合計	124,022	



閉架書庫。積層書庫の上階は固定架で8段だが天板の上まで資料が載り、満杯の状況。



新聞の現物保存が奥のスペースを専有している。



6段高書架で開架配架。通路幅。窓際に読書席がならぶ。



サービスデスクに対して垂直に書架がならぶ。開架冊数87,000冊。



サービスデスク手前側に9門を高書架で配架。高窓からの採光天井に工夫も効果薄い。



入口から左に子ども開架、じゅうたんコーナー。絵本がならぶ。コンテナも動員して配架している。

◆ 舞鶴市立西図書館 訪問ヒアリング記録

日時：令和3年10月21日(木)午後3:30～

場所：舞鶴市立西図書館

出席：舞鶴市立西図書館：館長、主任（両名とも司書）
市民文化環境部文化スポーツ室図書館課：課長
コンサルタント：

○施設概要

- ・建設：1990年、延床面積：919㎡、構造：RC造 平屋建
- ・BDS 盗難防止ゲート/システムなし

○資料概要（令和2年度）詳細は図書館年報に詳しい。

- ・蔵書：11.8万冊（開架7.6万冊、閉架4.2万冊、双方満杯状態）
磁気テープやICチップの装備を図書にしていない。
- ・蔵書の内訳：一般図書8.5万冊、児童書3.3万冊
（東西図書館それぞれの分類別蔵書構成の割合は左下表に転載）
- ・雑誌124タイトル、新聞18紙、視聴覚資料1140点

○利用状況（令和2年度）*感染症拡大のため1ヶ月の休館あり

- ・個人貸出冊数：12.6万冊、貸出者数：6,483人
- ・団体貸出冊数：1.8万冊、のべ利用団体数：533
- ・利用状況は、西図書館が東図書館を上回っている。
- ・近年利用が上がっている高野・中筋地域には新興住宅地がある。
全市ネットワーク展開が弱く、登録や貸出数の成長が足踏み状態。

○施設状況<建築的課題>

- ・雨水漏水の修繕をたびたび行っている。
- ・トイレは改修が必要。（給排水管設備も心配）
- ・空調機の効きが悪い（旧型フロン機器を修繕して使っている）
- ・空調機の老朽化（故障すると交換部品が無い）
- ・書架間通路幅など新バリアフリー法規格にあっていない（w1.2m）
- ・西と南の日差しが入る構造でブラインド調光や遮熱断熱に課題

○施設状況<図書館機能的課題>

- ・開架、閉架ともに満杯の状況。（現施設収容力自体が小さい）
30万冊開架への成長不可、書庫積層化で集密型導入できず、
- ・対面朗読室が2室あるが、利用無く、資料倉庫化している。
- ・開架書架は高書架だが6段で7段化できない寸法構造。
- ・カーペットコーナー/共用お話し室は、防音性能や集中性には不十分。
- ・読書テラスがあるが、防犯監視や管理区画に対応できていない。
- ・新聞現物保存方法と収納架の対応が、過渡的なままで不十分。
- ・書庫上層への図書搬出入昇降が人力で重労働。

西図書館の蔵書構成

	一般書	児童書
0総記	1,354	183
1哲学・宗教	2,169	156
2歴史・地理	5,936	991
3社会科学	7,117	948
4自然科学	3,838	2,210
5技術・工学	4,379	762
6産業	1,432	453
7芸術	4,441	1,189
8語学	1,132	326
9文学	19,676	7,342
絵本	0	6,523
紙芝居	0	606
参考資料	977	135
郷土資料	1,634	1
開架計	54,085	21,825
閉架	31,187	10,764
合計	117,861	



閉架書庫。積層書庫だが上階は固定架。新聞の現物保存がスペースを取り、閉架図書42,000冊で余裕なし。



サービスデスクに対して垂直に書架がならぶ。開架冊数76,000冊。書店のようなテーマ展示。



サービスデスク手前側に9門を高書架で配架。書架が足りず通路にカラーボックスを配置している。



入口からすぐに子ども開架。じゅうたんコーナー。コンテナも動員配架。手前は紙芝居架だが少ない。



入口脇に新聞雑誌コーナー。平机に新刊や企画展示を工夫して演出している。配置の工夫し尽くしている。

◆ 舞鶴市立図書館中分館 訪問ヒアリング記録

日時：令和3年10月21日(木)午後1:50～

場所：複合施設中総合会館 中公民館内 中分館

出席：舞鶴市中公民館：担当者（公民館兼務）

市民文化環境部文化スポーツ室図書館課：課長
 コンサルタント：

○設置場所と設備

- ・複合施設中総合会館1階、中公民館内に設置。97.3㎡
 学校の教室標準が64㎡なので、1.5教室のひろさ。
- ・複合施設には、保健センター、デイサービスセンター、
 子育て支援センター、福祉協議会、地域包括支援センター等
 が入っていて、相乗的なついでの利用が魅力。

○資料管理と貸出方式

- ・蔵書は10,000冊程度。電算化や分類統計、防犯装備はない。
 雑誌15タイトル、新聞5紙、紙芝居240タイトル程度
 資料構成は、児童書、9門が中心。
- ・貸出は逆ブラウン式。利用プライバシーは守られている。
 資料には期限表を付けている。資料の動きを把握できる。
- ・利用登録者は6,785人。(令和2年度)
- ・東図書館、西図書館では分館の蔵書構成を把握できていない。
- ・組織上は図書館の分館となっているが、実態は公民館図書室。

○中分館の資料費

- ・予算：65,000円程度(例年：令和2年度は追加予算あり)
- ・資料購入、資料費負担、装備は東図書館。選書は分館。
- ・購入希望(選書)は中公民館から出している。

○中分館のサービス

- ・貸出：1人3冊、2週間まで
- ・予約受付：中分館の資料のみ
- ・カウンター業務は公民館職員が行っている。司書非配置。
 (図書館との兼務辞令なし、公民館職員として対応)
- ・東、西図書館の資料の返却・予約受け渡しは行っていない。
- ・ICT環境、利用者端末、インターネット環境無し。

○利用者のようすと課題

- ・中総合会館と併せて利用されている。
 親子連れや高齢者が多い。
- ・児童書や9門の人气が高く、実用書はあまり動かない。
- ・資料・職員・施設の図書館3要素の指標からは発展性が弱い。



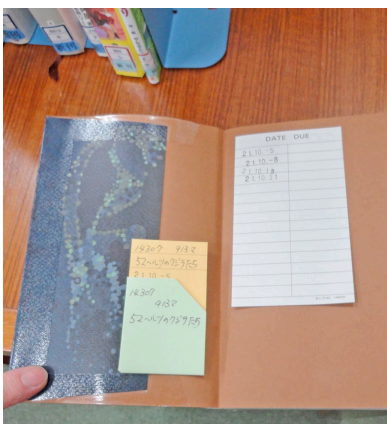
中総合会館1階入口脇にある。公民館事務室と接している。カウンター業務は公民館職員が行っている。



読書机8席、ソファー席があり、新聞・雑誌・絵本紙芝居もある。整理行き届く。利用繁忙の乱れ無し。



資料構成は児童書と9門の割合が多い。全集目立つ。



期限表をつけている。



貸出は逆ブラウン式で利用守秘。



VTR視聴席があり、AV資料は著作権処理されている。行政資料・パンフレット等も閲覧可能。

◆ 舞鶴市立図書館南分館 訪問ヒアリング記録

日時：令和3年10月22日(金)午前10:40～

場所：南公民館内 南分館

出席：舞鶴市南公民館：館長、担当者

市民文化環境部文化スポーツ室図書館課：課長
コンサルタント：

○設置場所と設備

- ・南公民館1階の入口すぐの位置にある。42.0㎡。
学校の教室標準が64㎡なので、0.7弱教室のひろさ。

○資料管理と貸出方式

- ・蔵書は7,000冊程度。電算化や分類統計、防犯装備はない。
雑誌5タイトル、新聞2紙、
児童書3,500冊、実用書800冊、9門1,500冊、文庫、絵本
- ・貸出は逆ブラウン式。利用プライバシーは守られている。
資料には期限表を付けている。資料の動きを把握できる。
- ・利用登録者は2,473人。(令和2年度)
- ・資料の廃棄は東図書館に依頼している。
- ・東図書館、西図書館では分館の蔵書構成を把握していない。
- ・組織上は図書館の分館となっているが、実態は公民館図書室。

○南分館の資料費

- ・予算：55,000円程度(例年：令和2年度は追加予算あり)
- ・資料購入、資料費負担、装備は東図書館。選書は分館。
- ・購入希望(選書)は南公民館から出している。

○南分館のサービス

- ・貸出：1人3冊、2週間まで：1日の平均来館者数が不明。
- ・カウンター業務は公民館職員が行っている。司書非配置。
(図書館との兼務辞令なし、公民館職員として対応)
- ・東、西図書館の資料の返却・予約受け渡しは行っていない。
- ・ICT環境、利用者端末、インターネット環境無し。

○利用者のようすと課題

- ・児童書や9門の利用が中心、実用書はあまり動かない。
- ・東図書館と南分館を使い分ける利用者は少ないようだ。
- ・高齢者、図書室を目的に来館した親子連れが見られる。
- ・試験前の中高生で、読書席がいっぱいになることもある。
- ・南公民館で活動している朗読ボランティアグループがある。
対面朗読、イベントや学校で活動している。
- ・東図書館の資料を返却したいという希望は、時々ある。
- ・資料・職員・施設の図書館3要素の指標からは発展性が弱い。



南公民館 市内でも利用が多い。1階入口脇に南分館がある。耐震診断済み、補強の必要は無しに。



読書机12席 中高生の利用も多いがコロナに不適。



新聞2紙、文庫がならぶ。点字版辞書の蔵書があるが、南公民館で点字ボランティアの活動は無い。



貸出は逆ブラウン式。



雑誌5タイトル。バックナンバーも配架されている。

◆ 舞鶴市立図書館加佐分館 訪問ヒアリング記録

日時：令和3年11月10日(水)午後1:30～

場所：加佐公民館内 加佐分館

出席：舞鶴市加佐公民館：館長、担当者(司書有資格)
市民文化環境部文化スポーツ室図書館課：課長
コンサルタント：

○設置場所と設備

- ・加佐公民館1階の入口すぐの位置にある。50.5㎡
学校の教室標準が64㎡なので、0.7弱教室のひろさ。
- ・前面道路より高台だが過去に河川氾濫浸水被害があった。

○資料管理と貸出方式

- ・蔵書は10,500冊程度。電算化や分類統計、防犯装備はない。
雑誌15タイトル、新聞1紙、
児童書3,700冊、一般書6,700冊 紙芝居、絵本あり。
浸水の影響で蔵書の入れ替えがあり、新しい本が多い。
- ・貸出は逆ブラウン式。利用プライバシーは守られている。
資料には期限表を付けている。資料の動きを把握できる。
- ・加佐地域は広く利用登録者は81人と少ない。(令和3年10月)
- ・東図書館、西図書館では分館の蔵書構成を把握していない。
- ・組織上は図書館の分館となっているが、実態は公民館図書館。

○加佐分館の資料費

- ・予算：55,000円程度(例年：令和2年度は追加予算あり)
- ・資料購入、資料費負担、装備は西図書館。選書は分館。
- ・購入希望(選書)は加佐公民館から出している。

○加佐分館のサービス

- ・貸出：1人3冊、2週間まで・広域な地区で利用拡大に限界性。
- ・カウンター業務は公民館職員が行っている。司書有資格者在籍。
(図書館との兼務辞令なし、公民館職員として対応)
- ・予約は受付なし。依頼があれば目録等の蔵書検索を職員が行う。
- ・ICT環境、利用者端末、インターネット環境無し。

○利用者のようす、分館運営上の工夫と課題

- ・学校帰りや親子での利用がある。(貸出増大傾向かは疑問)
- ・新刊のチラシ作成したところ、利用者が増えた。
公民館のふれあい講座などで、分館のPRを行っている。
- ・高齢者向けにはハードカバーの購入を多くしているが、
若者向けは文庫本を選定。(配架や予算上の工夫が棚に見える)
- ・資料・職員・施設の図書館3要素の指標からは発展性が弱い。



加佐公民館・市役所加佐分室 1階入口脇に、加佐分館がある。広域な加佐地域支援の重要な拠点施設。



読書机4席、コロナ対策も手作りで対応されている。



雑誌15誌、読書席の近くに辞典類の禁帯出資料。展示配架に工夫や手を入れて場を創っている。



一般書は9門比率が高い。全集ものを下段に置く等配架の工夫をしている。棚に手が入っている。



紙芝居・絵本・児童書が蔵書の約6割。新刊本は妻側の目立つところに配架など工夫されている。

1-2-② 図書館と類縁施設を知る

◆ 大浦会館 訪問ヒアリング記録

日時：令和3年11月11日(水)午前9：10～

場所：大浦会館 図書室

出席：舞鶴市大浦会館：担当者、担当者(司書有資格)
市民文化環境部文化スポーツ室図書館課：課長
コンサルタント：

○図書室の設置場所と設備

- ・広域な大浦地域の南端、中心市街地からの導入部拠点に、公民館大浦会館があり、その1階にある。51㎡
- ・学校の教室標準が64㎡なので、0.8教室のひろさ。
- ・大浦会館周辺は、小学校、放課後児童クラブ、こども園、デイサービスなどが集中している地域支援の拠点である。各種送迎の時間には住民関係者が集まりやすい。

○図書室の運営

- ・貸出は行っていない。
- ・室内の閲覧のみ。資料補強は弱い。
- ・図書の閲覧を目的とした来館は見られない。

○大浦小学校区地域放課後児童クラブ

- ・図書室で運営している活動団体。
- ・図書室の児童書を読む子どももいる。

○大浦会館の利用者

- ・山越えの北側海岸沿い集落など大浦地区に住んでいる方は漁業就業など忙しいのか、あまり会館の利用がない。
- ・東舞鶴など中心地区の利用者のほうが多いように感じる。
- ・自家用車での利用が多い。

○大浦地区の生活像、住民の移動の概況

- ・大浦小学校への通学：スクールバス、1km圏内は徒歩。
- ・沿岸から東舞鶴駅までの自主運行バスがあるが、本数が少なく、バス料金は高額である。
- ・買い物は、車で中心部へ行く。生協の宅配を利用する人も。移動販売車「とくし丸」が定期的に廻っている。
- ・舞鶴市地域づくり振興課が若い世代の定住者を呼び込むプロジェクトを行っている。キャンプ場や体験農場の開設などが進んでいる。

○現況の課題と将来的な可能性

- ・現在は図書館分館ではなく、大浦地域にサービス拠点は無い。
- ・広域な大浦地区に住む多世代の居住者には、小学校、こども園、デイサービス、大浦会館（公民館）の4施設が集約した界隈は、今後も重要な社会接点であり、公共サービス支援拠点になる。
- ・図書館サービスシステムのアウトリーチサービス拠点として、可能性と重要性を感じさせるポイントに位置づけられる。



大浦会館 まわりに小学校・こども園・デイサービスセンターがある。



読書机8席、蔵書は児童書が中心。



図書室で大浦小学校区地域放課後児童クラブが運営されている。



図書室の蔵書は、室内での閲覧のみ。

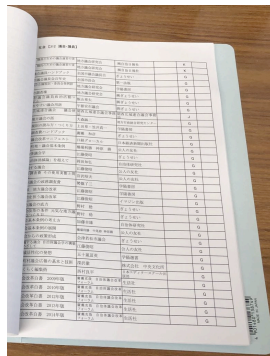
◆ 舞鶴市議会図書室／総務課図書コーナー 市政情報コーナー 訪問ヒアリング記録

日時：令和4年1月17日(月)午前11:50～
 場所：市議会図書室、舞鶴市総務課
 出席：舞鶴市議会事務局総務課総務係：担当係長、担当者
 舞鶴市総務部総務課：担当課長
 市民文化環境部文化スポーツ室図書館課：課長
 コンサルタント：

<市役所内 議会図書室>

○配架と蔵書について

- ・配架しているものは、議会の会議録、法律や議会運営に関する一般書、市の刊行物など。
- ・配架量は8連4段程度。古くなった資料は保管庫に移動。条例で廃棄する保管年数は決まっているが、基本的に廃棄はない。(今後、保管庫の容量で検討することになる)
- ・市の調査記録等で検討段階の印刷物は配架しない。
- ・議員だより等は、個別ファイルに整理はしていない。政務活動費でつくられたものは添付資料として提出してもらう。
- ・図書館との連携なし。資料持ち合いや蔵書リストの共有はなし。
- ・資料購入は、議員各派から購入希望書籍名を挙げてもらい決定。



○資料提供について

- ・行政の調査資料は各課から電子資料で提供を受けている。市議会では独自にクラウドシステムを持っており、クラウドにアクセスできるのは、市議と議会事務局のみ。
- ・一般市民の利用はない。

○レファレンスについて

- ・近隣行政に関する調査を受けることはあるが、基本的に、議員ご自身で調べていただいている。

<総務課図書コーナー>

- ・市役所職員の図書検索や利用については、議会図書室よりも総務課内の「法令規則系図書コーナー」が知られている。

○配架について

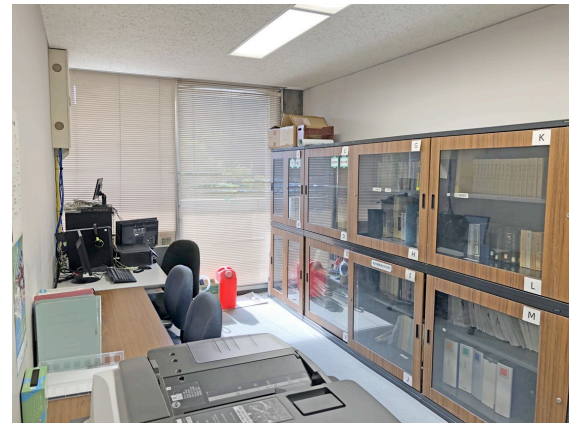
- ・配架しているものは、加除式の法令資料、法律や情報公開関係の一般書など。
- ・配架量は4連3段程度。

○貸出について

- ・図書貸出簿に記載してもらい、管理している。

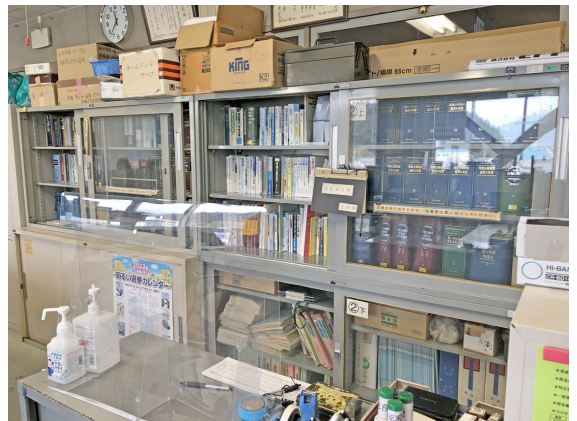
○将来的な図書館との連携の可能性

- ・議員諸氏や市役所職員への資料提供や調査支援は、目指すべき課題解決型図書館のサービスとなっている。
- ・近年の図書館計画の動向として、議員・行政職員・市民の調査利用を支援する「行政資料図書館」の必要性、重要性の再確認が普及している。
- ・各地の形骸化した低利用の議会図書室を、全市図書館システムに組み入れ、専門職員を配置し、地域行政資料(広域市町村行政を網羅して)を積極的に収集して、コンシェルジュのように調査支援やドキュメンテーション(簡易調査と調書作成)を行う。この情報ストックを全市図書館システムとした東京日野市の施策が知られる。
- ・舞鶴市では、上記のような図書館の行政サービス、行政図書館分館体制への施策方針について、どのような段階を踏んで具体化を図ってゆけるか、今後検討を進めていきます。



市議会図書室 蔵書量は8連4段程度。古くなった資料は保管庫へ移動する。

←市議会図書室 蔵書リスト
 分類は配架のためにアルファベットで管理している。



行政職員が利用している総務課図書コーナー



市役所1階玄関ホールの市政情報コーナー

◆ 舞鶴市郷土資料館 訪問ヒアリング記録

日時：令和3年11月11日(木)午前10:20～

場所：舞鶴市郷土資料館舞鶴ふるさと発見館(西総合館内)

出席：舞鶴市郷土資料館：館長

市民文化環境部文化スポーツ室図書館課：課長

コンサルタント：

○郷土資料館と図書館の資料の持ち合いについて

- ・近世・近代の一次資料は郷土資料館が保管している。
- ・市史編纂で集めた資料のうち、個人蔵のものは持ち主に返却している。
- ・昭和50年に郷土資料館ができるまでの資料は図書館にある。
- ・図書館と郷土資料館では、保存資料の目録を持ち合っているため、連絡はよくとれている。
- ・図書館のレファレンスを郷土資料館に引き継ぐことは頻繁にある。

○資料の保存状況について

- ・30年の間に郷土資料館は3回移転している。
- ・ふるさと発見館の資料庫は湿度管理ができています。
- ・赤レンガ倉庫や廃校になった小学校に保存している資料があるが、保存環境は盤石とはいえない。

○新中央図書館での資料サテライト展示の可能性について

- ・図書館は利用者が多く、サテライト展示は有効だろう。レプリカ展示などで興味を持ってもらい、図書館を入口に郷土資料館の集客に結びつけられるとよい。
- ・50～60㎡程度の企画展示スペースがあれば、郷土資料の企画展示がやりやすい。展示が無いときは市民グループに利用してもらおうとよいのでは。

○糸井文庫、古地図のコレクションについて

- ・古地図のレプリカは図書館で展示可能。(大型地図架などで図書館には海図もコレクションされているが)
- ・古地図は書籍化、糸井文庫の浮世絵コレクションは電子データ化されている。インターネットでも閲覧可能。

○専門的利用者グループの存在と今後の連携について

- ・「地方史研究会」が公民館で活動している。近世が専門で、郷土資料館の一次資料を利用することもある。
- ・会員の論文や研究成果の目録は電子データ化されていて、図書館とも共有している。
- ・新中央図書館とその資料群の奥に、郷土に係る専門的知見を有す郷土資料館があり、今後も協力連携が重要であると確認された。

※訪問の2週間後のTV「アザ-ストーリー」では、金閣寺炎上、水上勉、舞鶴市につながる事件と縁起について、脚光が当てられていた。



展示・受付の手前には資料コーナーがあり、ヒアリングの間にも閲覧に訪れる利用者がいた。



舞鶴ふるさと発見館 入口のようす



近代までを紹介するパネル展示



日本海交易、城下町の歴史文化を紹介する展示



糸井文庫 浮世絵コレクションはインターネットで閲覧ができる。

◆ 舞鶴市多世代交流施設まなびあむ 訪問ヒアリング記録

日時：令和3年10月22日(金)午前11:20～

場所：多世代交流施設まなびあむ

出席：多世代交流施設まなびあむ：館長

市民文化環境部文化スポーツ室図書館課：課長

コンサルタント：

○開館の経緯

- ・東公民館と老人福祉センター「文庫山学園」を移転・統合。
- ・旧市民病院西棟を改修して整備された。令和3年7月開館。

○利用者のようす

- ・開館以来、施設全体の利用者が増え続けている。
- ・施設全体は、平日の昼間の利用が多い。
- ・東図書館が近く、資料少なく、現状図書室の利用は少ない。

○今後の活動について

- ・自主講座の拡充を計りたいという方針がある。
- ・公民館で活動できなかったNPOやボランティアグループにも利用を広げたい。

○障がい者の働く場について

- ・1階カフェはテナントで飲食業者が営業している。
 - ・みずなぎ学園のパン販売が行われている。
- 各事業所がお店を営業していることもあって、公共施設で営業しているところは無い。

○図書・健康促進コーナー

- ・蔵書は図書館の除籍本などが中心で、利用は少ない。
- ・閲覧のみで、貸出は行っていない。
- ・壁付書架、ソファ席とヘルストロンが設置されている。

○今後の図書館のサービス拠点として

- ・現状では、図書室は狭く資料は補強されない。
- ・図書館分館を設置する余裕はなく、拡大も難しい。
- ・図書館資料の予約受け渡しや返却は、不可能ではない。
- ・農協店舗もあり集客力は大きく、余裕のあるロビーを活用するなど図書コーナーの拡大も場をイメージできるが、資料の安全管理や貸出し予約などの「分館としての改変」には課題が多いように観察された。
- ・火災時の避難通路内の不燃化など、法的課題対応が必要。



まなびあむ外観 旧病院である様子がよくわかる。



施設周辺は広々としていて、駐車スペースも充分。BM拠点としても活動がしやすい。



図書・健康促進コーナーの入口



◆ 舞鶴市子育て交流施設あそびあむ 訪問ヒアリング記録

日時：令和4年1月17日(月)午前10:30～
 場所：子育て交流施設あそびあむ
 出席：子育て交流施設あそびあむ：副所長、担当保育士
 市民文化環境部文化スポーツ室図書館課：課長
 コンサルタント：

○開館の経緯

- ・平成27年4月開館。所管は子育て支援課。

○利用者のようす

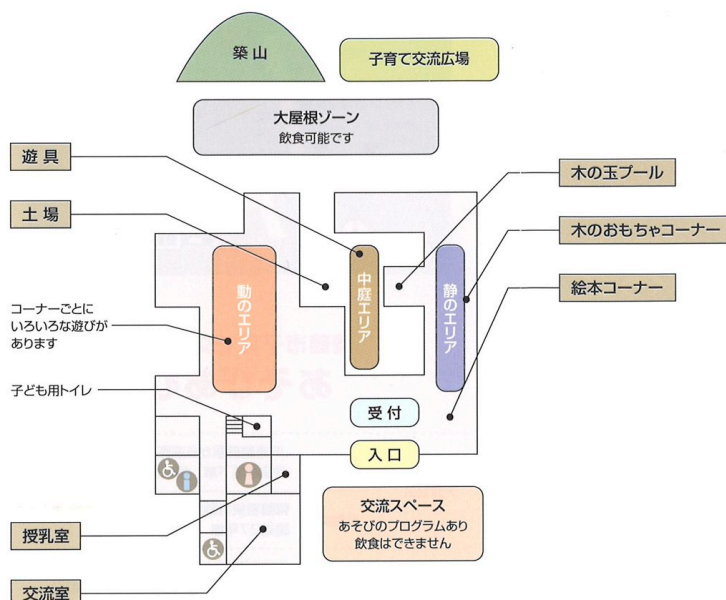
- ・新型コロナウイルス感染症発生の前は、年間7万人が利用。
- ・市内外から、多いときで一日400～500人の来館がある。
- ・平日午前中は乳幼児連れの個人利用が多い。
- ・うみべのもり保育所が隣接しているので、平日はお迎え帰りに親子で利用されることも多い。
- ・土日は小学生の利用も多い。

○図書コーナーについて

- ・絵本や子育て関連図書を配架している。展示の冊数は少ない。倉庫に展示していない図書の収蔵がある。絵本は平置きで、季節ごとに選んで配架している。夏休みなどは小学生向けに多くの図書を配架している。
- ・館内閲覧のみで、貸出はしていない。
- ・図書は備品扱いで、蔵書リストあり。毎年購入予算はついている。
- ・図書館からの団体貸出等は受けていない。
- ・年代別のおはなし会を行っている。読み聞かせの担当で、個人的に図書館から本を借りて準備している人もいる。
- ・図書館から貸出を受けるなら、大型絵本などを利用したい。

○将来的な図書館との連携の可能性

- ・ブックスタート、乳幼児検診などとの連携は今のところない。
- ・連携コーディネートや図書の団体貸出しなど支援が出来るか。
- ・玄関ピロティやボランティア室（集会对応か）などでの自動車図書館サービスの拠点化などが出来れば、東舞鶴海側（旧東公民館サービス地域）のこどもや育児市民層につながる。



動のエリア 小学生程度を対象
 遊具など身体を動かして遊べる遊具を置いている。



図書コーナー 閲覧のみで貸出はしていない。
 絵本や保護者向けの子育て関連図書を配置



広々とした入口・受付回り
 入口の外に庇の深い「交流スペース」がある。



深い庇の外部(飲食可)、築山・中庭など外遊びのスペースも充分にとられている。

◆ JR小浜線 ^{まつのおでら}松尾寺駅舎・salon de RURUTEI
訪問ヒアリング記録

日時：令和4年1月18日(火)午前10:00～

場所：JR小浜線 松尾寺駅舎

出席：salon de RURUTEI：代表、担当者、
市民文化環境部文化スポーツ室図書館課：課長
コンサルタント：

○駅舎利用の経緯

- ・松尾寺駅：JR小浜線の無人駅
木造駅舎そのものは機能を失い廃駅化している。
- ・2008年 駅舎がJR西日本から舞鶴市に無償譲渡された。
- ・2009年 舞鶴市の観光交流施設としてオープン。
NPO法人「駅舎と共にいつまでも」が指定管理者となる。
- ・2018年 駅舎が登録有形文化財に指定。
地域の人々の記憶と情緒の中心的なシンボルとなっている。

○salon de RURUTEIについて

- ・松尾寺の門前に日本茶屋「流々亭」として営業していたが、2017年の台風21号の被害で営業ができなくなっていた。
- ・NPO法人「駅舎と共にいつまでも」から業務委託を受けて、2019年に「salon de RURUTEI」を松尾寺駅にオープンした。
- ・新型コロナウイルスの影響で、現在は喫茶を休止しているが、お茶飲料のテイクアウトと「両丹茶」や茶菓子などを販売している。舞鶴市産100%のお茶も販売している。
- ・駅舎は志楽地区の選挙投票所としても利用されている。選挙があるときは、「salon de RURUTEI」も商品展示をかねてスペースを空けている。
- ・地域の高齢者が集まる場所となっている。

○将来的な図書館との連携の可能性

- ・無人化した「地域の生活と歴史の焦点」であった駅舎は、全国的には、地域環境の中心拠点として、再整備・活用される事例が散見されている。
- ・舞鶴市においても、小浜線や京都丹後鉄道の駅拠点について、地域の焦点として「ひとが集まる場の創出」施策が有用になると想像される。そうした先行的事例として松尾寺駅施設の現状がある。
- ・こうした地域再生策の方向性に、新しい図書館サービスが協調して、BM自動車図書館サービスの拠点として具体化出来ないか。駐車場スペースにBM自動車図書館を停めて、雨や雪や酷暑の季節は、駅舎待合スペースで貸出しや相談、給茶や歓談が行われる情景が想像できる。
- ・ちなみに、松尾寺地域の高齢者の方の図書館利用について「現状では東図書館にバス利用で出掛けられる」と聞き取りがあった。東図書館は最寄りのバス停から距離があり、高齢者は十分程度歩かなければならないという声もあった。
- ・図書館システム再編ののちには、頻度の低い調べ物は図書館に向き、日常の読み物利用は身近なBMでのリクエストや返本、という利用者の使い分けが想像される。



松尾寺駅外観 2018年登録有形文化財となった。



カフェ「salon de RURUTEI」指定管理者から運営委託



駅舎の待合スペースは広々としている。BM拠点の候補として考えられるか。



観光交流施設部分(現：RURUTEI)は選挙投票所としても利用されている。